

# 社会貢献活動

セブン&アイHLDGS.は「事業を通じて地域の発展や豊かな生活環境づくりに貢献する」という方針のもと、社会・文化貢献活動を社会的責任の一つとして捉え、7つの重点領域\*を定めています。

その重点領域の中でも、「社会性と公益性が高く社会から広く理解が得られる」「事業活動との関連」「国際的な課題との関連」の3つの判断基準に勘案し、国内外での地域貢献活動の一環として、各事業会社が商品・サービスの提供を通じた寄付活動を積極的に実施しています。

## 社会・文化貢献活動基本方針

セブン&アイHLDGS.、その事業会社および関係会社は、企業行動指針の精神に沿って、地域社会、国際社会との連携と協調を図り、良好な関係を維持することにより、地域社会、国際社会の一員として、社会・文化貢献活動を社会的責任の一つとして捉え、積極的に平和で豊かな生活環境づくりを支援していきます。

## ※社会・文化貢献活動に関する重点領域

- ① 未来の社会をつくる子どもたちや青少年の支援
- ② 誰もが暮らしやすい安全で安心な地域社会づくりの支援
- ③ 地域環境・地球環境の保全
- ④ 文化芸術・スポーツ振興の継承と発展
- ⑤ 国際的な貧困の撲滅
- ⑥ 国際交流・協力
- ⑦ 災害支援

## 各団体と連携した取り組み

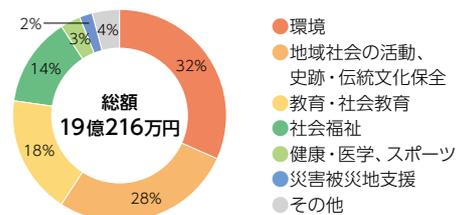
### ザンビアの子どもたちに靴を贈る

そごう・西武では、全店舗に「子ども靴 下取りコーナー」を常設し、公益財団法人ジョイセフ(以下、ジョイセフ)を通じてザンビア共和国の子どもたちにお客様からお預かりした靴を贈っています。この靴ははだしの子どもたちが足のけがが原因で破傷風や寄生虫病にかかることを防ぐために役立てられており、お預かりした子ども靴は、2009年から2014年6月末までの累計で42万5,776足になりました。2014年4月からはイトーヨーカドーでも同じ取り組みを実施しています。



子どもたちに靴を配布している様子

## 社会貢献活動費(2013年度)



※セブン&アイHLDGS.、セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカドー、そごう・西武、ヨークベニマル、セブン&アイ・フードシステムズ、セブン銀行、ヨークマート、赤ちゃん本舗の合計額。  
 計算方法は(一社)日本経済団体連合会「2011年度社会貢献活動実績調査実施要項」に準拠。

## 「ホワイトリボン運動」への協力

赤ちゃん本舗とそごう・西武では、ジョイセフが推進している、世界中の妊産婦と赤ちゃんの命と健康を守る運動「ホワイトリボン運動」に賛同し、ジョイセフとのパートナーシップのもと「アフリカ・ザンビアにマタニティハウス（出産待機施設）を贈ろうプロジェクト」の活動を応援しています。店頭やインターネットでの募金受付を実施するほか、店内など全国に75台（うち、赤ちゃん本舗52台、そごう・西武23台）のホワイトリボン支援自動販売機を設置し、飲料をお買い上げ1本につき2円（飲料メーカー1円+設置した事業会社1円）をこのプロジェクトへ寄付しています。加えて、そごう・西武では2013年12月に、クリスマスに合わせて「ホワイトリボンピンバッジ」を作製し、販売した収益金55万円を寄付しています。

また、赤ちゃん本舗では2013年5月に、「Facebookで“いいね!” チャリティ企画」を実施。赤ちゃん本舗広報担当がFacebook内で投稿したザンビアでの体験レポートへの“いいね!” 数を集計し、1いいね!につき10円をこのプロジェクトへ寄付しました。（2012年5月～2013年12月までに集まった店頭・Web募金総額741,521円）

また、お客様から不要になった赤ちゃんの肌着・ベビーウェアをお預かりし、ジョイセフを通じてザンビアに届ける活動を2010年4月から継続実施しています。お預かりした肌着・ベビーウェアは、妊産婦・乳幼児検診の巡回活動などで配布されるほか、妊婦さんの安全なお産を守るために建設されたマタニティ出産待機施設の利用促進にも活用されています。（2014年2月末現在25店舗で実施）



赤ちゃん本舗の担当者がザンビアで配布現場を確認

## 商品を通じた取り組み

### 国連WFP「レッドカップキャンペーン」への参加

セブン&アイHLDGS.は、2013年5月に国連の食糧支援機関である「国連WFP」の学校給食支援を応援するため、「レッドカップキャンペーン」へ参加しました。このキャンペーンの目的である「飢餓と貧困の撲滅」に賛同し、「セブンプレミアム」のお菓子5アイテム、「セブンゴールド」のカップ麺3アイテムの売上金額の一部を寄付することで活動を支援しました。



### 「アベスコ基金」

イトーヨーカドーでは、2000年に飲料メーカーなどと「セブン&アイ アベスコ基金」を共同設立。店舗に設置した特定の自動販売機の収益の一部を、国際人道支援活動に取り組んでいる団体に寄付しています。

2013年6月には、公益財団法人プラン・ジャパンなど国際人道支援に取り組む4団体へ409台分の支援金1,488万円を寄贈しました。



自動販売機の活動告知